

に い が た ろうしきょう NEWS

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！ すまいる介護マン



1

広い敷地にゆったりと佇む施設。中は自然光をふんだんに採り入れて明るく開放的な空間になっている。



2

担当している利用者の歩行訓練。会話の中でさりげなく、体調、意欲、興味などを引き出す。

■**今後の自分** 本人のやる気と目標を引き出して、生活を良くする「トータルな」お手伝い」が理想です。

■**就職の理由** 子供の頃からお世話になり、信頼していた塾の先生に「理学療法士が向いている」と言われて学校に入りました。何をやるのかよくわからない。ただ、この人の言うことなら間違いないんじゃないかと。医療系の勉強は、最初は大変でした。実は僕、留年してるんです。国家試験も二回目で合格。挫折した人の気持ちはよくわかる筈。失敗しても最後までやりとげたい、と思ったあの時の気持ちは、機能回復して、やっとその人がやりたいことができた時の感動につながっていると思います。

■**仕事のポイント** 特養で働きたかった理由は、機能訓練を通じてその方が変化していく様子を長い目で見たいから。現職は今年で丸三年になります。大切なのは、どれだけその方にあったサポートができるか、どう意欲を上げていけるか、だと思います。高齢の方の中には運動が億劫な方も多い。だから、会話の中で好きなことを探します。気分を盛り上げて興味のある運動へ。話すだけで終わることもあるくらいです。特養では生活の現場も訓練ですから、介護士さんに協力してもらって、生活の中でどう運動してもらおうか考えます。こは手伝わなくてほしいとか。以前、どんな提案も拒まれる利用者様を担当したことがありました。何を言っても全く受け入れてもらえない。ボール投げをすれば、誰もいないところに投げる。正直、嫌だなあ、と思ってました。亡くなられる数日前、初めて「ありがと」と。言動と気持ちは、必ずしも一致するとは限らないのかな。それからは、その人のもうひとつ裏の思いを見えるようにしています。

筋肉が回復しても生活に結びつかないと自己満足で終わる。

理学療法だけでなく作業療法、言語聴覚、全体を見て一番合うサポートを。

すまいるマン 佐藤勇太 さん

- 所属 特別養護老人ホームしうんじ
- 経歴 1984年8月新潟市東区生まれ 新潟第一高校～新潟リハビリテーション専門学校(現在は大学)卒 理学療法士として老健勤務などを経て現在の職場に。
- 趣味 旅行、美味しいものめぐり



施設には荘厳な仏像と、隣接して仏間が。仏壇に手を合わせることを日課にしている利用者も多い。右の写真は、施設建物に囲まれる紅葉の中庭。



特別養護老人ホームしうんじ

- 運営 社会福祉法人 紫雲寺加治川福祉会
- 特別養護老人ホーム 70名(多50、コ個20) デイサービス35名・ショートステイ10名 ホームヘルプサービス・老人介護支援センター
- 新潟県新潟市真野原外3331番地2 TEL 0254-41-4700

生活を良くする「トータルな」お手伝い

方の中には運動が億劫

【第22回】

平成28年9月12日(月)～13日(火)

新潟県老人福祉施設研究大会

地域からの信頼を高め 期待に応える

～輝く未来へ、福祉のトップリーダーとして～



研究大会実行委員長として



実行委員長
佐野一美

特別養護老人ホーム
白ふじの里 施設長

今大会冊子の表紙は、開催地である長岡市の「米百俵の群像」を掲載しました。「目先のことにとらわれず、明日のために行動する」を精神に未来を担う新しい世代を育む思想は、私達の福祉、介護の世界でも通ずるものがあります。

初日の記念講演では、講師の二宮清純氏、福間 勉氏のお二人からリーダーのあり方や福祉の原点に立ち返るお話を聞くことができ、大変貴重な時間でした。

翌日の分科会は5つに分かれ、日頃の研鑽の成果を学び合う場として、活発な討議、意見が交わされました。あらためて、地域からの信頼を高め期待に応えるべく、地域に求められる福祉の牽引者としての自覚と、新潟の福祉に対する熱い思いと繋がりを感じた大会でした。

最後に、実行委員長として力不足で至らない点多々あったかと思えます。しかし、事故もなく大成功の内に終了することができたのも皆様のお蔭です。心より感謝申し上げ結びとさせていただきます。

日 程

第1日目・9/12(月) 全体会

<ハイブ長岡>

○式典

○記念講演Ⅰ

演 題 「組織を動かすリーダーシップ
～名将・名選手から学ぶ～」

講 師 スポーツジャーナリスト 二宮清純 氏

○記念講演Ⅱ

演 題 「“老人福祉”の視点から見た現状と課題」

講 師 公益社団法人全国老人福祉施設協議会

参事 福間 勉 氏



第2日目・9/13(火) 分科会

<ホテルニューオータニ長岡>

○第1分科会

<長岡グランドホテル>

○第2～5分科会

第1分科会 社会福祉法人の経営

～社会福祉法人制度改革と次期介護報酬改定に向けて～

平成29年4月に施行される「改正社会福祉法」の考え方と、政省令からみる具体的な社会福祉法人の対応について、独立行政法人福祉医療機構の千葉正展氏からご講演いただきました。今なぜ社会福祉法人制度改革が進められているのか、制度の見直しから今後の経営対応までご説明いただきました。また、次期介護報酬改定の傾向と対策について全国老施協の本永史郎氏からご講演いただき、平成27年



千葉正展 氏

度改定の影響から今後の社会福祉法人としてやるべきことについて学ばせていただきました。今まさに会員施設の皆様が興味のある内容でしたので、大変多くの皆様からご参加いただき盛況のうちに終えることができました。分科会運営につきましてご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

(運営副責任者 松田宏基)



本永史郎 氏

第2分科会 デイサービスの経営



妹尾弘幸 氏

月刊デイでもお馴染みの株式会社QOLサービス 代表取締役 妹尾弘幸氏をお招きし、制度改正に左右されない強いデイサービスづくりについてご講演頂きました。

生き残る法人になるためのポイントやシステムづくりなど、通所ケアに何が必要かを考えさせられるアツと言う間の2時間でした。本来であれば、1日かけてゆっくりとご講演頂ければ良かったと少し残念に思います。また、午後からは6事業所による事例発表が行われ、大変忙しい中充実した分科会であったと感じております。これもひとえにスタッフの皆様方のご協力の賜物と大変感謝致しております。

(運営責任者 井野端 司)

第3分科会 介護と医療の連携

～多職種の連携・協働による総合的なケアを提供するために～

新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科准教授 河野聖夫先生より講演を頂き、先生の体験をもとに医療と福祉施設の双方の認識の違いで起こる様々な弊害について説明がありました。

また、在宅生活を希望される方に対して地域の関わり方や、主治医の在宅への基準にもバラつきがあるなどの問題点も提起をして頂きました。

事例発表では6つの事業所より発表してもらい、河野先生より講評。各事業所とも「医療」を「栄養」「健康」等の様々な面から捉え、他職種と連携のもと、体制を整え利用者の体調の維持、向上に取り組んでおり各事業所の特色が出ていた内容でした。

(実行委員 御苑義彦)



河野聖夫 氏

第4分科会 認知症ケア

～認知症の人の意向を大切にした支援のために～

認知症当事者の抱えている不安や実際の思いを知ることで、どのような支援が必要なのかを考えました。講演Ⅰでは、おれんじドア代表の丹野智文氏から、「認知症とともに生きる」についてご講演いただき、認知症当事者の苦悩や思いを知ることが出来ました。つづいて、5事業所から認知症ケアの取り組みについての発表が行われ、講演Ⅱでは、介護老人保健施設みどりの杜 相談課課長の齊藤祐介氏から、発表の講評と「認知症の方の意向を大切にした支援のために」についてご講演いただきました。認知症の中核症状や心理症状の具体例などから、認知症の人の気持ちや行動を考えた生活を支えるケアの視点について学び、有意義な分科会になりました。

(運営責任者 加藤真由美)



丹野智文 氏



齊藤祐介 氏

第5分科会 ケアチームを立ち上げる

社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター センター長代行・副センター長 佐藤信人氏を講師に迎え、21世紀委員の皆さんのサポートを得る形で第5分科会はスタートしました。

最初は緊張感漂う中のグループワークの始まりでしたが、佐藤氏の巧みなリードと様々なゲームを取り入れたワークショップでたちまち額に汗するほどの熱気を帯び、参加者の皆さんは初対面なのに終盤はチーム一丸となって目標を達成しようとする姿を見て、頼もしく感じました。

「どんなチームにも誰一人無駄なメンバーはいない」という佐藤氏の言葉を受け止め、参加者はチーム作りの実践の肝を学ぶことのできた分科会となりました。

(運営責任者 松村 実)



平成 28 年度

関東ブロックカンントリーミーティング in 新潟

平成 28 年 10 月 6 日(木)～7 日(金)

会場：NASPAニューオータニ（南魚沼郡湯沢町）

関東ブロック一円より 234 名、新潟県からも 93 名の方々が参加くださり、「Style-KAIGO“ニッポン一億”～地域共生社会をつくる日本型介護・福祉～」をテーマに県外から参加のみなさんと大いに議論し、交流を深めました。

全国各ブロックのトップを切っけの開催となり、またグループディスカッションもバズワードを事前に選択して、同じバズワードを選択した者がグループとなりディスカッションを行なうという新しい方式でした。ご参加いただいたみなさんはもちろんのこと関東ブロック各都県市の実行委員、当日運営スタッフとして活躍してくれた新潟県老協 21 世紀委員のみなさんのおかげで 2 日間の日程を無事に終えることができ、大きな成果を得ることができたと思っております。

このたびは各施設・事業所よりご参加・ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。



実行委員長 遠藤真一

内容報告

副実行委員長 今井正人

ディスカッションの報告は、関東ブロック 21 世紀委員が行いました。

【第 1 グループ】関係が希薄なコミュニティの再建を目指し地域住民と一緒に福祉力を高めていく。職場の人間でありながら、地域の住民でもある。日常でも地域との接点がある事を意識し、地域に私が存在していることを知ってもらう。

【第 2 グループ】目まぐるしい時代の変化に現場の声を反映させて、なにが必要なのか、誰のために行っている仕事なのかを見据えてロボット ICT をうまく活用し、効率を図っていけないのか。

【第 3 グループ】キャリアアップに関しては与えられる意識ではなく自分で取りに行く意識への転換。夢を語り、目標設定をしていくべき。

私たちの仕事は人の力あってこそ成り立つものです。自分の足元を見て介護に真剣に向き合い、自分たちの強みを大事に仕事していく。それこそが未来型介護という結論を導き出しました。



平成28年度

介護力向上講習会【新潟分校】

八色園は東京会場を含め介護力向上講習会を受講して今年で4年目になります。

受講当初は活動が軌道に乗らず、顕著な成果が得られない状況でしたが、最近ではこつこつ取り組んだ成果が少しずつ現れていると思われます。

今年度の取り組みのメインテーマである「水分」については、現在は個人に合わせた勧め方を意識して行っており、平均水分摂取量も以前より増えています。それ以外の食事・運動・排便の3つのケアも職員の知識や意識も高くなり、アセスメントを早い段階で行うことで、早い方だと入居した日から1週間程で「おむつ」が外れることも経験しています。

今後も利用者様の尊厳を大切に、活動を継続していきたいと思っています。

第4ブロック

特別養護老人ホーム八色園

小杉修一さん



個別ケア会議の様子



第1ブロック

特別養護老人ホーム帛の郷

生活相談員

いずみ まさよし

泉 昌佳さん

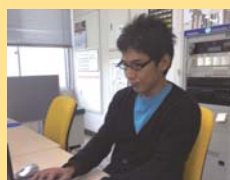
特別養護老人ホームで生活相談員をしています。先輩の誘いでゴルフを始めたのが4年前、今ではすっかり夢中になっています。毎年法人内のゴルフコンペが開催されており、普段接する機会の少ない他事業所の先輩や後輩達とコミュニケーションをとる良い機会となっています。

ボールの行く末に一喜一憂し、大自然の中でナイスショットを決めることがストレス発散になり、「また明日から頑張るぞ!」という気持ちになります。

良い仕事をするにはオフの充実は必要不可欠! これからも仕事に趣味に頑張ります。



「ONの私」「OFFの私」



第2ブロック

新潟市養護老人ホーム松鶴荘

介護係長

たかち

ひろき

高地 大樹さん

「私は、ケース検討会や担当者会議を特に重要視しています。」(高地さん談)

介護係長として、「まとめ役」を担い、施設にとってなくてはならない頼りになる存在です。プライベートでは、ご家族とサッカー観戦や野球観戦に出かけたりと「良き夫」「良き父親」の顔も持っています。さらに、消防団員として地域における消防防災のリーダーとなり、平常時・非常時を問わず地域に密着し、一人暮らし高齢者宅への防災訪問、応急手当の普及活動等を通して地域住民の方々の安心と安全を守る重要な役割を務めています。

職場でも家庭や地域でも、ワンピースの「ゾロ」のような存在です。(文:菅原正克)



介護あるある川柳

「うらやましい」
透きとおるよな
九十路肌
匿名さん

父介護
生きてるだけで
ありがとう
ジュンチャンさん

ぬれないと
始めたぬりえが
おわらない
Bisさん

一人ひとりの個性を生かして

養護老人ホーム 龍宮荘 所長

若井 和実さん

●施設長リレーコラム●



養護老人ホーム龍宮荘は、昭和31年に「見附市養老院」から始まり、昭和40年に「龍宮荘」と改称し、現在に至っています。

当施設では、入所者の重度化に対応するため、平成18年度より、外部サービス利用型特定施設入居者介護事業を開始し、介護を必要とする入所者に対し、介護保険サービスを利用していただいております。今年度より、外部サービス型から一般型特定施設に移行したことにより、柔軟なサービスを提供することが可能となり、看護師を増員、機能訓練指導員を配置したことで、より充実した介護を実施することができるようになりました。

また、入所されている方達が日常生活に楽しみや役割を持った生活を送ることができるよう、四季折々の行事やサークル活動の実施はもちろんのこと、一人ひとりが出来ること、やりたいことを支援しています。野菜作りが得意な人には、収穫した野菜を献立に盛り込み、食事時に提供して

もらっています。また、裁縫が得意な人には小物を作ってもらい、市内のお店に置かせてもらったり、手づくり市に参加し、入所者と一緒にお店を開いたりするなど、入所者がやりがいを持って取り組めるよう工夫しています。これからも、個別に細やかな支援ができるよう取り組んでいきたいと思っています。

龍宮荘は歴史のある施設であるため、地域の方たちから「何かあればいつでも協力するよ」と言っていたので、大変心強く感じています。毎年、施設の園芸作業、ゲーム大会、避難訓練などに積極的に協力していただいております。今後も地域との連携を深めていけたらと考えています。

養護老人ホームは措置施設であり、社会的な養護を必要とする高齢者を受け入れ、セーフティネット機能の役割を果たしています。今後も職員と共に研鑽を深め、求められる役割を担っていききたいと思います。



畑作業の様子



地域交流ゲーム大会



手づくり市



地域の方との園芸作業

事業所所在地	新潟県見附市本明町1694
運営事業者	社会福祉法人 見附福祉会
事業所の種類	養護老人ホーム
定員	60名
連絡先等	TEL 0258-62-1087 FAX 0258-62-1841

発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ2F
電話 025-281-5534 発行人 市井 栄吉
にいがたろうしきょう NEWS 平成28年12月20日発行